

東京大学オープンキャンパスに参加して

わたしは、やりたい仕事や事業などはまだないのですが、文系学部を志望しているので、法学部と経済学部の模擬講義に参加しました。

最初は法学部の講義に参加しました。早くから並んだのでとても暑かったのですが、そのおかげで一番前の、それも教授の目の前に座れました。前半は民事訴訟についての講義でした。法学の分野についての説明がありました。法学には実定法学という実際の法の解釈・立法について論じる分野と基礎法学という法の背景や基礎を問う分野があります。私がお話を聞いた垣内先生という先生は実定法学の中の民法を主に研究しているらしいです。まず、民事訴訟とはどのようなものかという話をしました。地方裁判所の第一審の内訳は損害賠償に関するものが一番多く、その次は金銭に関するものが多いです。このように、そもそも民事訴訟とは自由で対等な主体（私人）間の関係（権利義務）にかかわる訴訟です。また、訴訟という言葉は平家物語に出てくるほど古くから使われていました。外来の概念としての訴訟の原語はラテン語の“pro cedere”「前に進む」という言葉です。それから、紛争解決の一手段としての民事訴訟には権利保護と紛争解決の面があります。後半は、政治分野の話をしました。岩倉使節団には欧米の制度や文化を調査研究することと条約解説についての協議をすることの他に、政治・財政を凍結させ現状を維持して好転を待つことという目的がありました。しかし色々なことがあり調査研究以外の目的は達成されませんでした。このように、簡単なものだけだと思いますが、実際の講義のような模擬講義で、雰囲気を知るととても良い機会でした。

次に経済学部の模擬講義に参加しました。道に迷って人に聞きながら行ったところ若干遅れてしまったのですが、ちゃんと中に座ってきくことができました。ここも法学部と同じく前半・後半に分かれていて、前半は経済学で使う高校数学についての話をききました。経済学の重要な原理に「比較優位の原理」という原理があります。二つの分野がありそのどちらにも優れているA国とどちらにも劣るが片方の分野に比較的すぐれているB国があった時、A国がどちらの作業も行うよりも、A国はA国が得意な分野を行、B国はB国が得意な分野を行う方が全体の生産が大きくなるというような原理です。これを連立方程式で解きました。経済学にこれまで習った計算がつかえてとても面白かったです。そのほかにも経済学で使う数学がわかりました。後半には会計学の話もしました。企業や組織の財務諸表から実際の財政状況を読み取る技術についての話でした。マクドナルドとモスバーガーを比較すると、マクドナルドの方が規模は大きく投資し甲斐があるように見えますが、実際は薄利多売でモスバーガーの方が資産に対する負債が少ないため、安定しているとわかります。単純な資産量や負債の量ではなく将来を見据えた分析で企業を判断しなければならないとわかりました。役に立つ話ばかりで勉強になりました。将来や志望する大学、学部について考える材料になると思います。

国土交通省内見学について

私の班は班別行動の時間に国土交通省の見学をしました。アポイントメントをとるときから対応してくれた方と、人事の方が国土交通省について説明してくださいました。国土交通省は運輸省、建設省、北海道開発庁、国土庁の4省庁を統合してできました。国土の利用や整備、交通政策の推進を主に行っています。国土交通省で務めるには、まず国家公務員試験を受け、合格したら各省庁で採用試験を受ける必要があります。

このような説明を、普段国土交通大臣が会見を行う部屋で受けました。そんな部屋に入ることはなかなかできないので貴重な経験だったと思います。しかし途中から報道の方が入り始め、その後大臣の会見があるから別の部屋に移るように言われてしまいました。残念でしたが、本物の会見が始まる前というのもなかなかあわないものなので今は運が良かったと思っています。

説明の後は国土交通省の免震施設を見学しました。国土交通省のある中央合同庁舎3号館の地下には免震施設があります。中央合同庁舎3号館は、昭和41年に立った古い建物ですが、「防災拠点」としての機能を確保するため、「建物を免震化」する耐震改修工事を平成12年から平成14年にかけての2年間で実施しました。既に使われている建物を壊さないように、建物の下を掘って免震化する耐震改修工事のことを『耐震レトロフィット』といいます。その日実際に見学ができたのは、建物外部のエキスパンション・ジョイントという部分でした。エキスパンション・ジョイントとは、地震時に建物が大きく揺れるのを防ぐために建物と地面の隙間を開け、この隙間にステンレスなどの金属とカバーがつけられている仕組みです。中央合同庁舎3号館には、鉄板とゴムを交互に重ね合わせた『免震アイソレーター』が二種類、オイルの粘性によって地震エネルギーを吸収する『オイルダンパー』、地震によって建物が動いた跡を記録する『地震動軌道計』建物が揺れた後もとの位置に戻ったかどうかを確認する『下げ振り』など、たくさんの仕組みがあり、それぞれをじっくりとみることができました。実際と同じ材質でできた模型も見せていただいて、とても興味深く見学できました。職員の方のお話を聞く時間があまりなかったのが残念でしたが、国にかかわる仕事をしている方と関わることができてとてもうれしかったです。

私は、東京大学のオープンキャンパスではなく企業に訪問をしてお話を聞くということを目的にこの東京研修に参加しました。三菱商事の社員さんや国土交通省の職員さんたちとお話したり、ディスカッションしたり、ためになるお話を聞いたりできたことはこれからについてよく考えるのに大変役に立つだろうと思います。また、一番の目的ではなかつたのですが、東京大学のオープンキャンパスや二高OB・OGの先輩方との座談会もとても刺激的でした。高校生活について、勉強の仕方、志望校を決めた時のこと、大学で考えたこと、やったこと、これからの夢、展望など、面白い話がたくさん聞けました。なにを目標とするかは決まったわけではありませんが、方向は少しははっきりしてきたような気がします。この研修に参加して学問においても経済においても知らなかった面白い分野がたくさんあることがわかりました。この経験を生かして将来について考え続けていきたいです。